

救急箱で助け合う街づくり

付属シールで提供意思を表示

エルプエンテ インターナショナル

突然の事故や自然災害が発生した際、救急箱を提供し、助け合える街づくりを行う取り組みが盛がりを見せている。エルプエンテ インターナショナルが展開する「提供表示シール式救急キットF+A(通称エフエイ)」がそれ。付属のシールで提供の意思表示を行い、採用企業・団体のブランドイメージアップや、社会貢献活動に繋がっている。

発案したのは、同社・代表取締役の藤原公生氏。藤原氏は「阪神・淡路大震災や、凄惨な事件が多発する近年、日本中を走る車や店舗に、救急箱を設置しておく意義の大きさに気が

ついた」と説明する。また、「自分や家族だけでなく緊急の事態に遭遇した際、救急箱の提供で人命救助につながる可能性が大きい」として、「提供表示シール式救急キットF+A」の製作を開始した

救急箱には、包帯・ガーゼ・消毒液などといった応急処置に必要な最低限のアイテムと、応急処置の方法を分かりやすく解説した説明書がセットになっている。また、事前に記入しておけば、ドライバーや同乗者の血液型、持病などの情報を救急隊員に



救急箱のケースは添え木としても使用できる

伝達できるカードも封入。さらに、救急箱のケースは骨折をした場合に“添え木”としても使用できるようになっており、「デザインの開発に試行錯誤を繰り返した」という。

現在1万個以上のF+Aを、企業・団体が採用を検討している。自動車やオートバイ、店舗に常備するかたちで導入を進めているが、緊急時に救急箱提供の意思表示を行うため、キットにはシールを付属している。シールのデザインは、応急処置のイメージに繋がる「FAマーク」(ファーストエイドの頭文字)を採用。赤と白で視認性を高めながらも、自動車や店舗の外観を損ねないようにシンプルなものとした。また、統一性を図るために特許を申請し、商標登録も済ませた。

藤原氏は「今年度中に、この救急箱を5万個まで普及させたい。今後、自動車メーカーとのタイアップ企画や認知・普及のためのイベントも検討しており、売り上げから多くの寄付金捻出を目指す」としている。S1



デザインにはFAマークを使用